

内閣府のパソコン普及率調査によると、90年代前半まで一部専門家やマニアが中心だったパソコン普及率が、90年代後半からはどんどん上昇し2001年には半数を超えた。パソコン普及はインターネットの利用と連動しており、2000年頃から急速に広がった。以前では電話やFAXで連絡していたことがメール送信に置き換わり、仕事のやり方が大きく変わった。職場では1人1台の個人パソコンが常識になり、つい十数年前までパソコンなしで仕事をしていたものが、今やパソコンなしでは仕事が手に付かない状況になってしまった。パソコンと共に携帯電話市場も急速な拡大を見せている。小学生でも持っている携帯電話は、我々の日常を大きく変えた。手のひらに入る1台の携帯で高画質の写真が取れる、音楽が聴ける、電子マネーで買い物が出来る、最近のワンセグではテレビも見られるなどの多機能ツールと化している。

急激な職場や社会のしくみの変化が起こると、それにとまなう管理体制や安全対策などの準備が間に合わない。いったんネットワークでトラブルが発生するとたいへんなことになる。最近、新聞紙上をにぎわすファイル交換ソフトWinyもネット活用のルールづくりが普及スピードに追いつかないところから生まれてきた現象だといえるだろう。インターネットでは常にウ

イルス感染の危険性にさらされる。対策ソフトが開発されても、すぐに新手の進化型ウイルスが現れる。まさにイタチごっこをくり返している状態だ。

これからの企業にとって、個人情報漏洩で民事訴訟され多大な損失をこうむるリスクはたいへん大きい。最近では企業むけの個人情報流出保険なるものも売り出されているようだ。コンプライアンスが重要視されるようになると、情報セキュリティの構築は業界を問わず常識となってくる。情報セキュリティの認証規格としてISMS、プライバシーマークを取得する企業も急増中だ。情報セキュリティ構築は、自社の情報ライフサイクルの分析からはじまる。次に情報の収集・利用・保管・廃棄のサイクルにおける脆弱性やその過程に潜在するリスクを把握し、機密性・完全性・可用性を満たしたマネジメントシステムの構築に進む。ハイレベルなシステム構築を目指すのではなく、あくまで自社の現状に応じた仕組みを構築・運用できるようにすることが大切である。



## 個人情報漏洩 緊急対策セミナー



## あなたの会社は大丈夫?!

～なぜ情報が流出・紛失するのか～ 防止対策は～

■ 日 時：平成17年5月23日(火) 13:30～15:30

■ 会 場：日刊工業新聞社 大阪支社 (大阪市中央区北浜東2-16)

※テクノ経営総合研究所では、企業の機密情報漏洩対策に関する「緊急対策セミナー」を開催いたします。

お問合せ先

(株)テクノ経営総合研究所 経営企画室 **06-6910-6797** (担当：森継)まで